

1 高山帯の植生をくわしく見てみよう



比較的単純な針葉樹林 (亜高山帯)

山頂部と山麓の高山帯と 亜高山帯



本音の多様な高山帯のようす

厳しき環境
わずかな地形の違い
標高の差の違い
など

多様な高山帯の植生

- ① 高山帯原
- ② 雪田植生
- ③ 限断巨木群落
- ④ 限断草原群落
- ⑤ ハイマツ群落
など

雪の少ない高山帯では、なだらかな地形の地帯も多く、山頂部などでハイマツ帯が伸びてこれに対して、北斜面帯が限断した地帯は、遠くはっきりと見られます。

3分冊 I巻 植物・野鳥
II巻 ほ乳類・両生、は虫類・魚類・昆虫
III巻 地質・陸水・気象

13 ムササビ



お寺の木から滑空し、空を渡るムササビ

1 滑空するムササビ

ムササビは「空飛ぶ座布團」ともよばれるように、その移動手段は木の上からの滑空です。

滑空する水平距離は飛び出す高さによって違いますが、普通20~30mは飛びます。ムササビの前足には4本、後ろ足には5本の指があります。それぞれの指にはカギ爪があり、木をがけ登るのに役立っています。そのため、ムササビがよじ登った樹皮にはひっかき痕が残されています。

2 ムササビの生息地

各集落には、昔から地域の道標を象徴する神社仏閣があります。こうした場所は、道標の対象地であるため大きな樹木があり、ムササビが入り込むことができる樹洞もあります。ムササビは、こうした樹洞で子育てをしています。



スギの皮をひっかいて登る

段丘帯の森林帯もムササビの生息地となっています。社寺林の中でも、こうした樹林に連なる場所では、ムササビの痕跡をよく確認することができます。ムササビが生息していれば、スギの皮がはがれています。

天竜川にすむ魚 (5) ワンドと枝川は魚のゆりかご



昇れるウグイ

天竜川には流れがほとんどない地帯に多い場所(ワンド)や本流から分かれた小川(枝川)に多い場所(枝川)があります。

ここでは流れが緩やかで底には砂や泥がたまり、岸にはヨシなどの草が生えていて、餌が豊富なスズキ等の隠れ場所がたくさんあります。このような場所はウグイやアブラハヤ、フナなどコイ科の稚魚やドジョウが暮らすに最適な場所になっています。

ところが、最近では魚食性のコクチバスやナマス、ブルーギルなどが増えてきて、小魚にとってゆりかごも安全な場所ではないようです。



アブラハヤ

オイカワ

駒ヶ根地帯の川

頭上を飛び回るツバメのような鳥は何だろう?

アマツバメ 全長86cm

宝剣岳や天狗岩のまわりを飛び回っているツバメのような鳥がいます。よく見ると、大きなツバメと少し小さなツバメがいます。大きい方は馬が長く、体の背側は黒色ですが、腰のどは白く見えます。この鳥はアマツバメです。馬根沿いの金山道に立っていると、近くをブーンという騒音を立てて飛び去っていきます。アマツバメは、高山帯の岩場に巣を造って子育てをしています。



アマツバメ

宝剣岳



天狗岩

巣で卵を産めるイワツバメ



イワツバメ

イワツバメ 全長12cm

アマツバメより小さく、馬の切れ込みが短いツバメはイワツバメです。千疊敷でロープウェイを降りたらホテルの軒下を見てください。まっとうここに巣を見つけたら驚きます。イワツバメは、産卵や雛の下などに巣団でいくつも巣を造っています。晴れた日は、上空を忙しそうに飛び回り、空中で餌となる虫を捕らえています。